る丶節、壹升ほど入鉢に、こへ土に干鰯等をまじへ鉢の底にしき、その所へ其儘にうつし、外を右之屎土の砂がちなるを、やわらかに入、扨其鉢を土の中にうづむか、又は三升ばかり入鉢等にうづむべし、花三りん又四りんつけて、其餘の芽出次第にとり、前日夕方につぼみ臺より末にいたり、二寸六分あれば、翌日四寸經りの花ひらくとしるべし、葉小にして花大なるを好とす、○下略

〔剪花翁傳三五月開花〕蕣　花種々近世異花數百品枚擧べからず、よて育方略之、開花五月上旬より漸々咲て、七八月にもおよぶ也、升水の方切口を沸湯に入て後、水器に扦入おくべし、されどいまだ盡す、酢煮して後冷水に扦置べし、慥に升水る也、又方龍骨を以よく煮るもよし、又午後より夕方までに花を開かせんには、前夜に、蕾の蔓を切、さて葱の末を蕾をいるゝ許に切て、蕾に帽せ、よく詰置、重石を結て井中に深く扦入おき、翌日備用のとき帽を脫して插花にすべし、

〔武江年表七〕文化十二年乙亥、今年ゟ肇り朝顏の異品を玩ぶ事行、文政の始迄、都下の貴賤、園へ栽へ、盆に移して筵會を設く、

〔甲子夜話十四〕近クハ牽牛花ノ變甚フシテ、花色ノミナラズ、葉ノ形狀モ變ジテ、柿葉、柳葉、楓葉、葵葉ナド、唱ヘ、イカニモ其呼所ノ如キ葉ナリ、花ノ品類ヲ賞スルハ聞ヘタリ、葉形ノ變ゼル何オモシロカルベキヤ、人ノ好尙モカク迄ネヂケタルコトヨト、興醒ルバカリナリ、又一變シテ、花ノ大輪ヲ賞スルコト流行出シ、花ノ指渡シ數寸ニ及ブ、其種法ヲ聞クニ、肥土ヲ臘月ヨリ製シ、牀下ニ藏メ、春雨ニアテ、盆ニ上セ種ヲ下シ、又移植シテ培養シ、蔓ノ延ザルヤウニ先ヲ留メ、葉モ多クテハ精力洩ル迚摘去リ、花數モ纔ツケテ、只一花ノ輪ノ太キナルヲ互ニ戰ハス、其盆栽ノ形容、蔓生トモ見ヘズ、譬ヘバ鳥ノ翎毛ヲムシリ取シガ如ク、誠ニ見苦シク見ルニ堪ザル計ナリ、菊牡芍ナドハ、盛モ久シケレバ、花ノ見所モ長クアリ、牽牛花ノ朝ニ開キ、晝ハ萎果ル物ナルヲ、頃刻ノ觀ニ供スル迚、半年餘ノ人力ヲ費スハ、餘リトイヘバ了簡モナキ、淺ハカナル娛樂ニテ、イカニモ